



つばめ農園おひさま便り

9

安渢貴子・安渢遊地

動物たちとのおつきあい

阿東高原では、コシヒカリの収穫がたけなわですが、つばめ農園のイセヒカリの稻刈りは一〇月の予定です。畑ではキュウリ、トマト、ナス、ピーマンに続いて、カボチャやミョウガがとれできました。まもなく大豆を枝豆で食べられるのではと楽しみです。干しておいたライ麦の来年用の種取りもしました。

今回は田畑に出没するけものたちとのおつきあいの話です。

モグラは、なぜかトマトの畠に穴を明けるのが大好きで、今年はトマトの半分以上が青い実をつけたまま次々に枯れました。いろいろな品種の種を蒔いて四つの畑に苗を分散して育てているので、食べるには困りませんが。春先にはエンドウをやられました。モグラはミミズを食べようと穴をあけるのですが、その通路を通つてネズミもやってきて、サツマイモが毎年かじられます。今年の春はジャガイモ、そして玉ねぎも食べられました。

モグラは振動が嫌いというので、カラカラという音が出る風車をあちこちに立ててあります。ペットボトルでカラフルな風車を作るのが農園主の安渢大慧（だいえ）の趣味で、畑に並んだ風車が回るのはかわいらしい光景ですが、馴れてしまつてあまり効き目はないようです。雑誌



脱穀機でライ麦の粒をはずして、
来年の種子をとる

で読んだ「正露丸」をモグラの穴に入れることも試みていますが、なかなか被害は減りません。やわらかな大豆の苗がおいしそうに生えそろつたころ、畑の山に近いところの大豆の葉や茎が食べられているのに気づきました。ノウサギです。畑の山側にネットの垣をまわしました。跳びこえる力はあつてもこれで防げたようです。以前、冬に雪が積もったあと畑に行つてみると、大根の地上部分だけすっかり食べてありました。ネズミや虫たちと違う無駄のないノウサギの食べ方なら、なんだか許せる気持ちになります。

イノシンには、サツマイモの芋が大きくなり始めた頃株ごとひっくり返されたりします。田んぼのお師匠さんのところでは里芋も毎年何



刈り草と発酵した馬糞をまぜて、畑用の堆肥をつくる準備

度もやられて気持ちがめいるとおっしゃいます。また稻が実る田んぼを走り回られた時は、稻が泥だらけになつて泣きました。イノシシは、集落全体の山際に垣をつけたり、夜中も点滅する光を置いたりして防ぎます。獵をする人に誘われ、大慧が解体を手伝つてお裾分けをいただいたりもします。耕作放棄地がふえ、ことに山裾が耕地ギリギリまで森になつていて、イノシシもノウサギもキツネもタヌキも、そして所によつてはシカやニホンザルも、森が「住み処」ですから、垣こそあれ美味しいものが目の前にあれば、食べたいだろうなと思います。「昔はイノシシ垣の向こうのスギやヒノキの人工林のところは草原だつた

んだ。木を植えてしまつて、動物は出てくるし、田畠は日陰になつてしまつていいことはない」とお師匠さん。こういった人工林の持ち主は、今では街にお住まいで、田舎で暮らす人の困りごとは届いていないのでしよう。

ここは、中国山地の西の端にあたり、ツキノワグマもやつてきます。お師匠さんはニホンミツバチの巣箱を置いています。ネオニコチノイド農薬が撒かれるようになつて、ミツバチの群れがほとんど居なくなるまでは、クマが蜜を食べに時々やつてきたそうです。山裾の農舎ではいつもラジオをつけっぱなしにしています。たがいに不意打ちで出会うと事故になるので、いきなり驚かさないことが大切といいます。師匠は家の入り口の角でばつたり出会つたことがあるけど、腹に力を入れて威儀を持つて、コラアッ!! と大声で言つたら引き返していつたそうです。それをやたらに怖がつて、行政はクマが出たら必ず殺してしまつから、クマとは静かにつきあうようにしているんだとのこと。

交換と贈与から地域資源の循環へ

前号に書いた、草集めの上手なSさんは、お金でなく収穫物での「支払い」という条件で定期的に来てくださいます。プレゼントとしてその時々の農産物をさし上げながら、堆

肥をつくりつて土石流の入つた田んぼの地力造りをしたいと話していたところ、耳寄りな情報をお伝えしました。ご自分の愛馬が預けてある乗馬クラブの馬糞堆肥を使ってみませんかとのこと。さつそく軽トラックでいただきに行つてみたところ、この道五〇年というご夫婦によつて二〇頭の馬たちが大切に世話されていました。そこでは、おがくずと混ぜた馬糞を背丈よりも高く積み上げて発酵中です。積んで四か月ほどたつたものは、直接畑に入れても害のない熟した堆肥になるので、秋野菜の準備をする近くの方が次々にもらいに来ておられました。舎飼の牛や鶏と違つて、馬は草が主食で、反芻しないため馬糞の含む纖維質は多く、その堆肥は炭素とチッ素の比率(C/N比)が土作りに適度なものとなつています。そんな宝の山が、取りに来れるならすべて無料とおっしゃるのです。こんど畑にまいた馬糞堆肥の効果を踏まえて、調子がいいようなら、つばめ農園の稻の収穫が終わつたら、ダンプカーを借りて田んぼの土づくりに役立つ馬糞堆肥をいただきにいこうと思つています。

(あんけいたかこ・あんけいゆうじ)
(つづく)